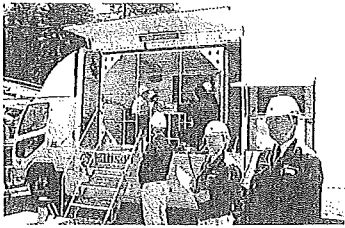


宮坂建設工業が第17回防災訓練

本番さながらの訓練実施

震度5強の地震発生を想定

児童生徒、市民ら1200人参加



【帯広篇】宮坂建設工業(株)帯広、宮坂寿文社長)は二十五日、本社の全職員を動員し、第十七回防災訓練を実施した。帯広小、帯広工高、帯広農高の生徒や一般市民、NPO団体など合わせて約一千二百人が参加。当日は、帯広市近郊で震度5強の地震が発生したと想定し、同社が管理委託

を受けている河川のバトリール、建物点検のほか、水防訓練や炊き出し訓練など、本番さながらの訓練を行った。

同社では、「災害対応マニュアル」を作成。地域住民の安全確保のため防災部隊として職員、資材、機材を二十四時間体制で待機させている。これまでも帯広開建、帯広工現などの発注官庁と協力しながら、機動力を生かした迅速な対応で被害の拡大を防ぐなど信頼も厚い。また、十五年九月に発生した十勝沖地震を契機に六月一日から九月三十日を「自然災害緊急対応強化月間」と位置付け、研究、防災設備の設置等を実施。同年から大規模災害の発生が増加し、その対応について様々な問題が指摘されていることから、社内に



とらまらず、関係協力会社や、宮公庁、近隣商店街にも協力を仰ぎ、防災訓練を実施している。

当日は午前九時に災害が発生したとの想定のもと訓練を開始した。同社内に宮坂社長を本部長とする災害対策本部を設置。同社のテレビ会議システムを活用し、札幌支社と連絡を取り合った。また、バトリール車で河川の被害状況や建物の倒壊状況、同社施工現場のバトリールを実施、安全を確認した。

併せて、帯広中央公園では防災関連の機器、免震・耐震コーナラーの展示、災害時空中撮影システムの実演、地震体験車の試乗(写真上)や双腕式油圧ショペルの模擬運転を実施。関係者や市民などが多数見学に訪れた。

十一時からは帯広小や帯広工高、帯広農高から生徒・教職員ら約百二十人が参加し写真下。各グループに分かれて土嚢作成訓練、消防放水、地震体験車の試乗体験を実施した。

汁・おにぎりを千人分用意。訓練に参加した市民や学生、関係者らに無料であるまった。

午後からは同公園で応急措置の実演、水防訓練を実施。手際よく効果的な作業に見学者からは感嘆の声が上がった。

また、炊き出し訓練では、豚

9/28 通信

海道通信

平成21年 9月28日 【月曜日】

各企業の社会貢献

住民交え救命講習など

宮坂建設工業札幌支店
70人参加し防災訓練実施



区。昨年度から、道央注水工川端トンネルなどの工事を施工していることから、二年連続で同地区での開催となった。

【君見沢篇】宮坂建設工業(株)帯広、宮坂寿文社長)札幌支店は二十四日、由仁町内の「道央注水3期農業水利事業道央注水工川端トンネル建設工事」(札幌開建設注)の現場付近で防災訓練を実施した。写真上。札幌支店の社員や協力会社社員、近隣住民、地元の小中学生など総勢約七十人が参加。有事に備えて救命講習や消火訓練などに励んだ。

仁町立川端小学校の児童八人も参加して行われた。この日はあいにくの悪天候となったため、屋内での救命訓練をメインに行われた。午前中は、児童が帰宅途中に倒れている人を発見し、近隣住民や同社社員が

一丸となって救命活動を行う想定で訓練した。児童たちが倒れている人に声をかけて意識の有無を確認し、地域住民へ通報を依頼。地域住民と同社社員による救急車到着までのAEDを使用した蘇生活動の一連をシミュレーションした。午後からは、普通救命講習を実施。AEDを使用した心肺蘇生方法や人工呼吸、心臓マッサージの手順や注意事項を学んだ。

同社は、平成十五年九月二十六日に発生した十勝沖地震を受け、毎年同日を防災訓練の日と設定。札幌支店でも、十八年度から支店単独での訓練を実施しており、今回で四回目となる。

実施会場は由仁町川端地